



「ちとせ」が変われば「みらい」が変わる

ちとせみらい通信

予算特別委員会

3月22日に予算特別委員会で質疑を行いました。当日の主なやり取りを一部抜粋してご報告いたします。(委員会質疑は一問一答方式)

1-(1) 長期総合計画策定業務経費

Q 現在の総合計画の策定の際にも、市民アンケートを初め、中学生、高校生や各種団体、町内会などからの意見収集、都市経営会議、総合計画審議会、パブリックコメントなど、幅広い市民の参加により得られた、まちづくりに対する意見を反映、尊重して、市民生活の満足度を高める計画にしましたと、現計画にも書かれているが、それらの意見が、計画のどこに反映されたのかわからない。次回こそ、市民アンケートの結果、市民から寄せられたご意見が、次期総合計画のどこの部分に反映されたのかが具体的に理解できるように策定いただきたい。

A 市民アンケートは、市民が、これまでのまちづくりをどのように評価しているのか、今後、どのようなまちづくりを求めているのかを把握する上で大変重要なものである。加えて、日ごろから、団体や地域からの要望、市長への手紙やポスト、各種アンケート、パブリックコメント、電話、ファクス、その他、市民との直接的な面談等々、さまざま場面で、市民の皆さんの意向を伺い、把握しているところ。これらのさまざまな意向を計画のどの部分に反映させるかを個別具体的に示すことは難しいが、市民の意向をまちづくりに反映することは、市民に、市政に対する理解とともに、まちづくりに対する参加意識を高める効果もあることから、市民意識の反映がわかる計画づくりについて、その可能性も含めて、検討してまいりたい。

1 総務費について

- (1) 長期総合計画策定業務経費
- (2) コミュニティセンター管理運営業務経費
- (3) 第2庁舎イントラネット整備事業費

2 民生費について

- (1) 町内会育成事業費

3 衛生費について

- (1) 食育推進事業費

4 商工費について

- (1) 商業等活性化事業費
- (2) 創業支援事業費の皆減
- (3) キャンプ場管理運営業務経費

5 教育費について

- (1) 千歳青少年教育財団支援事業費

1-(2) コミュニティセンター管理運営業務経費

Q 各コミセンの運営費に占める使用料収入の割合も稼働率も相当低い感じがするが、例えば、一定の条件のもとに、コミュニティセンター関係で物販を許可するか、自分たちのコミュニティの活動の場として、使用料収入の確保に向けた有効利用を、さらに促していく必要があるのではないか。構想なりすでに何か取り組んでいる事例等があるか。

A 地域のコミュニティ協議会においては、コミセン祭りなどの行事の中で活動費を捻出する取り組みを行っている認識している。一方で、千歳市コミュニティセンター条例では、利用申請者に対して、営利を目的とした物品の販売などを禁止しているが、コミセンについては、地域の生活環境を整備するためのコミュニティ活動に供する目的で設置していることから、行事などについては制約しているものではない。

2-(1) 町内会育成事業費

Q 次年度、新たに千歳市町内会連合会が実施する町内会活性化支援事業の中で、モデル町内会を2地区設定して、実践支援を行うということが明らかにされたが、現在、市内に148あると言われている町内会は、それぞれ地域

によって、世代別の人口分布とか規模が異なっており、組織の予算の額とか役員の体力といった部分で大きな格差がある。そのような状況下で単一町内会でうまく成功したという成果が、ほかの町内会にうまく伝播、波及するというイメージが持てない。その辺の事業の実効性について、どのようにお考えか。

A 本事業の実施については、今後3年間を想定しており、平成30年度は、画一的な取り組みではなくモデル町内会や地域を設定して実践することを検討し、町内会、市町連、市が協働して実践する事業としたところ。本事業については、行政が主導するのではなく、市町連が中心となり、町内会の主体性を尊重しながら、2つぐらいのモデル町内会を設定し、ファシリテーターを会議に加え、町内会の活性化に資する事例研究をすることにより、我が町、我が町内で取り組むことができる内容を企画し、実践しようとするもの。この実践内容については、各町内会に対して、成功、失敗を含めた事例などを紹介し、それぞれの地域性に応じて、実践事例をヒントに、課題解決に向けた取り組みに応用していただきたいと考えている。

4-(3) キャンプ場管理運営業務経費

Q 今、環境省では、国立公園満喫プロジェクトということで、全国で8つの国立公園をモデル地区にして、インバウンド増加に向けた国立公園における環境整備の普及促進を図っている。支笏湖畔では、訪日外国人旅行者の増加に合わせて、総務省が、既に、国立公園におけるWi-Fi環境整備などの検討を進めているが、インバウンド、国立公園等に入ってこられる外国人の方々は、今後、恐らくふえていくと予測をする。美笛キャンプ場において一番懸念されるのがトイレの問題かと思うが、トイレの洋式化について、整備の必要性をどう考えているか。



A 美笛キャンプ場には全部で16基のトイレがあり、洋式トイレの割合は全体の12.5%である。平成29年度の利用者アンケートの結果によると、要望事項として、洋式トイレやウォシュレットの取り付けについての記載が全体の53.1%に達している。トイレの洋式化は、インバウンドに限らず、利用者全体の満足度を向上させるための課題であり、必要な財源を確保した上でトイレの洋式化を随時進めていきたい。

5-(1) 千歳青少年教育財団支援事業費

Q 平成30年度についても、無料入館者数を9万6,000人というふうに見込んでいるが、昨年も無料入館者のうち、行政視察関係については有料化してよいのじゃないかと提言させていただいた。その際は、検討課題とするという答弁をいただいているが、その後、どのようなになったのか。

A 無料入館者の有料化については、水族館において、今年度、料金体系などを一体的に検討した結果、一部の無料入館についても有料化する方向で検討している。

市政や議会に関するあなたの疑問やお困りごとを是非北山けいたにお聞かせください。



メール: mail@kitayama-keita.com

ホームページ: <http://kitayama-keita.com>



「北山けいた」は議会議員も公僕であり、市民の御用聞きであるべきと考えています。議員としての取り組みをホームページやブログなどで発信しています。また、私の考えに賛同して一緒に行動していただける方を広く募集しております。お問い合わせは上記のメールからお願い致します。

ちとせみらい通信は私の想いを届けるかわら版です。

